

高齢者の交通事故増加中

平成18年中における県下の交通事故死亡者数は155人で、そのうち高齢者(65歳以上)が69人でした。特に歩行者被害が29人で前年より5人増加しています。

防災安全課
内線276

高齢者の自転車・歩行者

- 道路を渡るときは必ず「止まる・見る・待つ・もう一度確認」をしてください。
- 夜間の外出は明るい服装で、反射材を身に付けてください。

すべてのドライバーへ

- 自分の運転を過信しない。
- 長距離運転や長時間運転は要注意です。
- 通り慣れた道でも油断しない。
- 交差点では一時停止、安全確認をしっかりと行いましょう。
- 運転者も同乗者もシートベルトを必ず着用しましょう。
- 飲酒運転は絶対にしない、させないようしましょう。
- 早めにライトを点灯しましょう。

○思いやりとゆとりのある運転をしましょう。

家庭では

- 家族で交通安全について話し合いましょう。
- 交通事故防止についてお互いに声を掛けましょう。

「夜光たすき」をお忘れなく!



男女共同参画⑬

マタニティマーク

マタニティマークを知っていますか。妊産婦にやさしい環境づくりの一環として、厚生労働省が発表したものです。電車やバスなどの交通機関や飲食店の待合で、明らかに妊娠していると分かる女性が立っていたら、席を譲りますよね。ところが、妊娠初期では外見からは妊娠していることが分かりづらく、周囲の人に気付いてもらえないことがあります。また、人によっては臨月近くでもおなかあまり自立たない人もいます。そのため、席を譲ってもらえなかったり、交通機関の優先席に座ろうとして冷ややかな目で見られたりというつらい思いをしたことのある人は少なくありません。マタニティマークは、妊産婦が交通機関や飲食店を利用する際に身に着け、周囲の人に妊娠していることを理解してもらおうというものです。それによって、周囲の人も、席を譲ったり喫煙を控えたりといった配慮をしやすくなります。すでにこのマークを使ったキーホルダーなどを配布している自治体や交通機関、民間団体があるので、見掛けた人もあるかと思っています。あなたも、街で、交通機関で、このマークを身に着けた人を見掛けたり、やさしい心で見守り、必要なときには手助けをしてあげてください。

(文責 岩田)

シリーズ

『男と女』

